おじちゃん
長い間
ありがとう

小羊チャイルドセンター
〒361-0017 埼玉県行田市若小玉鞘戸 3547－1
TEL 048－556－7753　FAX 048－556－9196
第二小羊チャイルドセンター
〒181-0003 東京都三鷹市北野 3－1－3
TEL 0422－43－9754　FAX 0422－49－8880
市川　益子

実話をもとにした
心あたたまる絵本

全国学校図書館研究大会講師
『クラウディアのいのり』
の村尾靖子・著

おじちゃんせんせい
だいだい　だーいすき

むらおやすこ・作　山本祐司・絵

今人舎・刊　A4変型判　32ページ　本体1400円＋税（予価）

10月中旬発売予定！
ご予約はお近くの書店まで

◎おはなし◎

にじの保育園におじちゃん先生がやってきた。けいたくんは、お昼寝のたびに「おかあさーん」と泣く。おじちゃん先生はけいたくんをおんぶして外に出、「おもいきり泣けや」という。

チューリップの球根植え、夏のお楽しみ会、運動会、クリスマスの準備など、おじちゃん先生はいつも園児ひとりひとりを見守り、愛情を注いでくれた。病気で帰らぬ人となってからも、園児の心の中に生きている。――埼玉県の保育園の実話をもとに作られた、心あたたまる絵本。

むらおやすこ（村尾靖子）

1944年、山口県生まれ。結婚後、４人の子育てをしながら執筆活動を始める。島根県文化奨励賞受賞。「ラジオ深夜便」（NHK）リポ　タ　。作品に『クラウディアの祈り』（ポプラ社）、『命をみつめて』『草原の風になりたい』（ともに岩崎書店）、絵本の作品に『琴姫のなみだ』（岩崎書店）、『クラウディアのいのり』（ポプラ社　第14回日本絵本賞読者賞受賞）などがある。

山本祐司（やまもとゆうじ）

1966年、京都市生まれ、大阪デザイナー専門学校卒業、セツ・モードセミナー卒業、ザ・チョイス年度賞受賞。本の装画、絵本、紙芝居、挿絵などで活躍中。主な作品『ぼくをいじめるとねえちゃんくるぞ』（岩崎書店）、『パパのるすばん』（ポプラ社）、『ヒマワリの絵本』（農文協）、『たべものかるた』（ほるぷ出版）など。日本図書設計家協会会員、日本児童出版美術家連盟会員。

小羊保育の実話が絵本になりました

昨年７月 行田職員で愛称「おじちゃん」が亡くなりました。すると子ども達に様々な変化（奇蹟）が起こりました。園児達の心の中でおじちゃんがどんなに大きかったかを連絡帳や子どもの日常生活の中で大人が気付かされ、感動させられました。

今の時代、心の交わりが軽く取り扱われる世の中で、小羊の理念、保育の中に生き残っていた事の証ともなり、絵本ができました。

著者　村尾氏　絵を山本氏（おじちゃんによく似た心の持ち主）によって10月完成し、現在 全国図書館研究大会の大きな話題となって広がっています。直接園舎や子どもと接し出来上がった山本先生に感謝し、講師としてお招きする事ができました。

「絵本、そしてその背景の心温まるメッセージをお送りするに当たり」

縁あってこの絵本を手にして下さった御一人御一人に心よりの祝福がありますように。

昨年、三鷹の50周年記念誌が発行されて、今年は村尾さんの思いつきで弟の一周忌に、私やおじちゃんこと弟を喜ばす為にと書き上げた絵本がクリスマスを前に出版されました。

昨年弟は「50周年」をどんなに手伝いたかったでしょう。悲しい出来事も、神さまの領域に於いて光を与え慰めを与えられ、こうした奇蹟の絵本と言う形あるものへと変えて下さいました。試練も何事も主のみこころが成る時に思わぬ道があった事を深く心に思わされました。

絵本が多くの方々へのプレゼントに出来たことも、篤志家を始めとして小羊教会又多くの貴い献金があってのこと、そして小羊の園児、職員、保護者、卒園児等々の心の集まりが絵本の裏側にあった事を思い勝手ながら連絡帳から、またお便りの中から寄せられておもいを集めてみました。おじちゃんを知らない方でもよろしかったらお受取り下さい。

「すべての事が相働きて益となる」のみことばを信じて職員の手によって出来た事を感謝いたします。

平成24年11月

小羊チャイルドセンター　職員一同
市川　益子

I「園だより」より

神様の恵みによって

（行田小羊・23年8月の園だよりより）

先日、小羊チャイルドセンター職員のおじちゃんが7月19日（火）入院しました。その前から、週に3日程点滴に行田市内の病院に通院していましたが…おじちゃんは体調の変化があり入院致しました。腸の病気です。私達職員は、朝のおあつまりにおじちゃんの事をお祈りしたり仕事終了後、順番におじちゃんの病院に行き、一日も早く元気になれる様励ましたり、順番に行くことを職員の間にて話し合いました。

病室でおじちゃん!!と声をかけると耳は聞こえていますからうなずいたり短い話をしていましたが、【心は生きて働いています。】

子ども達がおじちゃんに、一日も早く元気になる様にお絵描きをして送りました。お絵描きをみながら市川先生が○○ちゃんは「おじちゃん、げんきになって下さい」と言ってるよ。○○くんが「また遊んでね」○○ちゃんが「いっぱい抱っこしてくれてありがとう。」って!!○○くんが「また遊ぼうね、早番で遊んでくれてありがとう」と読んでくれました。こばとさんからろばさんの子ども達が描いてくれた絵や文章をおじちゃんの耳もとで話して下さいました。かすかなうなずきであっても、きっとおじちゃんの心の中には一人ひとり顔を思い出し表情を思い浮かべてくれていたことと思います。

「神様奇跡を下さい」と私達職員はいつも願っております。（祈っています）また先日、春先におじちゃんが植えたスイカの収穫を致しました。おじちゃんが大好きだったスイカ（黄と赤）おやつの時間みんなでいただきました。おいしかったです、おじちゃん!!今まであたり前の様にやってもらっていた草刈りや細かい大工仕事：先日は畑の草刈りを職員でやりました。大変な仕事を今まで一生懸命やって下さったおじちゃん!!ありがとう。行事の前には一番早くアーチをたてたりテントをはったりと：思い出はいっぱい…子ども達にも私達職員にも思い出を沢山残してくれました。

優しい心をありがとう おじちゃん。おじちゃんは平成23年7月30日午前0時4分急逝致しました。沢山の思い出をありがとう おじちゃん。これからは天国で見守っていて下さい!!

四分一　智子

主は与え、主は奪り給う

（三鷹小羊・23年8月の園だよりより）

行田小羊の職員として15年半、終始、縁の下の力持ちとして蔭の人を通し抜いた愛称「おじちゃん」が7月30日、天国へと旅立ちました。

早朝から超遅まで子どもを守り、職員の心の支えとして園を守ってくれて本当に有難う。

「おじちゃん」は、私にとっては実の親子のような関係、運命を背負った弟でした。私は、赤ん坊の頃の彼の母親代わり。そして弟は最後には小羊のため、市川＝保育園を助けるために、不思議な導きで行田小羊の管理人となり、私の背負いきれないものを背負ってくれました。男手のない園舎を守り、職員研修の場である神奈川県三浦市の『にじのはしの家』を守り、早・遅番で職員が手薄な時は大きな力となり、「花が大好き」を生かして、私の夢であった〝花に囲まれた保育園〟を見事実現してくれました。にも関わらず弟は、恩人＝小羊に「自分は何をしたらいいのだろう？」とずっと問い続けていたのです。その一途の15年でした。

最後まで小羊を思い、最期の日に二人で話した事：「園の為に人の何倍も働いてくれて有難う」「家長として4人の子どもを育て、社会人として世に送り出し、最高の父親で偉かったよ」「新しい命に生きるんだよね」「父や母や、姉、兄二人にも会って一緒に神さまのそばでゆっくりしようね」：弟はパッチリと目を開いて、耳元の会話を楽しんでいました。

「形式（この世の事）は息子たちの気の済むように任せようね」「クリスチャンとして先に救われた者は主と共に心は自由、ハレルヤだよね」「主の御名によって感謝だよね」「すべて主にゆだねて感謝しようね」：こんな会話がしっかり二人で出来てよかったね。主はあなたの純粋な、幼な子のような素直な心が一番好きだったと思うよ。この15年間みんなに愛され、みんなを愛した弟は最高の幸せ者でした。みんなの心に平安があるように。

また会う日まで。チョットだけ先だったね。ありがとう、ありがとう。

市川　益子

Ⅱ「連絡帳」より

【訃報に接して】

H23年7月30日

・おじちゃんの訃報、とてもショックです。だいごもひなこもとてもお世話になったので、あまりふれないようにしよう…と思っていたら、だいごから、「おじいちゃん神様のところいっちゃったんだよ…1回だけもどってくるんだって、だいごわからないけど、かなしくなってこわいからもうききたくないんだよ…」とまじめな顔で、話してくれました。

・おじちゃんとのお別れ、とても悲しいです。とわも、りのも、もちろん私もおじちゃん大好きだったので、小羊チャイルドセンターで もうおじちゃんの笑顔に会えないと思うととてもさびしいです。家では、よく、おじちゃん早く元気になるといいネ!!って話してて、りのも「おいのりしてるよ!」って言っていました。昨日はおじちゃんのお話きいた?と言ったら「おほしさまになって神様のところへ行っちゃったんだよ。」と話してくれました。子どもにもちゃんと話していただきありがとうございます。おじちゃん大好きで、りのとみきちゃんでおじちゃんの取り合いをしていたのが昨日の事の様に思い出されます。おじちゃん!今までありがとうございました。

・おじちゃん先生、もっと長生きして欲しかったです。美喜にはずいぶん可愛がってくれ、小羊の彼氏でしたからね。美喜に「おじちゃん先生は天国に行ったんだよ」と伝えたら、「えー、なんでー」と言っていましたが、まだ理解するには難しいのかなと思いました。でも、ずっと伝えていきたいと思います。これからも天国で小羊のみんなを優しく見守ってくれます様に、今までありがとうございました。本当に心から感謝いたします。実は不思議なことに、月曜日の夜中、3時頃、夜勤で仮眠を取っていたら、元気なおじちゃん先生が、手を振って来てくれたんです。元気になって良かったなぁと思っていたのですが、お別れに来てくれたのかなと思います。

・おじちゃん先生…とても悲しいです。秀平ともお話をしていたら、〝おじちゃんは神様のところに行ったの!だからずっと一緒だよ!〟と…そうですね心の中に一緒にいて見守ってくれてますね。子どもたちが元気にすごす事を喜んでくれると思うので、2人がすくすく大きく育っていく様にがんばりたいと思います。おじちゃんありがとう!!

・おじちゃんがいなくなってしまい、とてもさみしいです。翔子はおじちゃんが大好きで 光組の時は よく昼寝の時にトントンしてもらって寝ていたようです。ご冥福をお祈りします。

・おじちゃん亡くなられたんですか!?信じられません。あの優しい笑顔をして、駐車場に居てくれてる感じがしますよ。

・おじちゃん、天国へいってしまったんですね。まだ信じられません。つい、このあいだまで元気に「おはよぉ リコちゃん!」って言っていたのに…ほんとに残念でなりませんね。おじちゃんには、ももちゃんが大変、お世話になったんです。毎朝、早番で、保育園に1番のりで行くと、おじちゃんがいて、毎日毎日、ももちゃんをだっこしてくれて…おじちゃんが、いてくれたから、朝早くから安心して預ける事ができてほんとうに、感謝しています。行事に行けば「ももさん元気?!」と、絶対に話しかけてきてくれて…ももちゃんも、おじちゃんが大好きでした。20日の日は、ももちゃんも参加して大丈夫ですか?最後のおわかれ、させてあげたいです。おじちゃんの死、しっかり、受け止めていつまでも、私達の心の中に、おじちゃんは、生きつづけると思います。長々とすみませんでした。リコちゃん。今日も元気です。よろしくお願いします。

・昨日りくから おじちゃん先生が亡くなったと聞きました。そんなに具合が悪かったとは知らなかったのでおどろきました。りくが小さい頃は毎朝おじちゃん先生の膝の上で可愛がってもらっていたので残念です。

コスモスの中にも

（三鷹小羊・23年10月の園だよりより）

行田小羊の職員が「Aちゃん、この頃泣き方が変わって、どうしたらいいでしょう？」と、事務室へ。「おうちで何か変わった事は？」「ないか？」緊張をほぐすため、何気ない会話でAちゃんに心を開いてもらう。家族の様子を想像する。確かに家庭の事情もあるが、「今の泣き方は前とは違う」と。そのほかに何が？

「アアそうだったのか」と気がついた。Aちゃんは今まで、「おじちゃん」のひざで癒されていた。今は、その膝がない。先生が聞いてくれてもうまく話せない。「Aちゃんの気持ち、分かってよ！」と叫んでいるようだ。

「そうか、おじちゃんのひざがなかったんだ。でもおじちゃんの心はAちゃんの隣にいるよ。ホラ、ここ、いるよ。こっちはイエスさまいるよ。」

Aちゃんは居場所を探していたのか、そうか、そうだったのかと気づく時、Aちゃんにも「大丈夫、大丈夫」の言葉が受け入れられる。

今、おじちゃんが丹精込めたコスモスが、行田の保育園の隣の田んぼ一面に咲き誇って、心を和ませてくれている。何ともいえないホンワカした気持ちになる、コスモスは私の大好きな花。帰りに園長がたくさんお土産にくださり、それを持って電車に乗った。50歳前後の女性のそばに座ると、「いい匂いですね。」鼻のきかない私は「そうですか？」「コスモスだけかしら？もうひとつのにおいが・・・」ハァ？「香水つけていらっしゃるんですか？」「イイエ」「いい匂いですね。水切りすると生き返りますよね」「ハイ、そうします。」何気ない会話だけど、温かくほのぼのとも幸せ気分、コスモスの花、とってもいい事ありそうな気分。そしてふと思った。おじちゃんは、丹精込めて作ったこのコスモスの中にもいたんだと。

Aちゃんも上を向けば、助けは隣にいるよ。

市川　益子

・お家でおじちゃんの話しをしました。「智くん赤ちゃんの時からおじちゃんのお膝にいつも座ってたの覚えてる？」と聞くと「ウン」と言って「いっぱいかわいがってくれてよかったね」と言うと「ウン」とうなずいてました。私も智くんもとっても大事にしてくれていたのを感謝しています。

・昨日は悲しい知らせに3人でお話をしました。園便りのママ先生のお話を読んでいたら号泣してしまった私に、2人が寄り添ってくれて心配してくれました。ママ先生のお話を声に出してもう一度読み、病床での様子が目に浮かびました。きっと子どもたちが大好きなおじちゃんは天国で皆を見守ってくれていると思います。泣いていたっておじちゃんは嬉しくないはずです。子どもたちの笑顔に囲まれていたおじちゃんですもの、私たちが笑顔でいる事がおじちゃんへの恩返しだと思います。ママ先生、病床での様子を園便りにて教えて下さりありがとうございました。3人で話した時、絵を持って行っておじちゃんに渡してくれた様子を聞き、子どもたちが喜んでいました。

・先生方へ
いつもありがとうございます。おじちゃんが天国に旅立ったこと 身近にいた先生方が 何より、辛く 苦しく さみしく感じられているのでしょうね。園だよりを読んで感じました。でも そんな姿を見せず凛として明るく振る舞う先生方。ありがとうございます。私達 父兄も今回のことがあまりにも急で気持ちの整理がつかず 軽々しく話すことが出来ない空気を感じます。いつもと変わらない送り迎え。でも小羊の園舎を見ていると、大きな大きな穴があいてしまったように悲しい思いでいっぱいになります。本当は口に出して、おじちゃんのことを話したいけど いっぱい、いっぱい話したいけど、あふれる思いが言葉になりません。涙が止まらなくなります。幼い子どもの記憶とは薄いものです。どれだけ おじちゃんが すごく、大切な存在だったのか あなた達が お世話になったのか…。私達親がしっかりと書き留めておかなければと改めて思っています。

・おじちゃん亡くなられたんですね。柊伍が小さい頃よく遊んでもらっていたので、とてもショックです。お祈りの時「おじちゃんの病気が早く良くなります様に」って言ってましたよね？柊伍が家でも言っていたので…

・園で貼り出されていた訃報にびっくりしました。入退院をくり返 していたことも聞いていました。園で見かけることがあった時も あまり体調が芳しくないのかな？と心配していました。それでもまさか…。本当に急なことで いろいろな思いがかけめぐりました。早番で登園すると必ずおじちゃんが居てくれて 泣いている我が子を温かく迎えてくれて、膝の上にちょこんと座らせてくれて…。今まで何十人、何百人の子ども達が おじちゃんの膝のお世話になったことか。そして安心して仕事に行けました。言葉数は少なく、いつも照れた様子でニコニコしていたおじちゃん。大工仕事、力仕事 いつもおじちゃんが先頭で頑張っていましたよね。おじちゃんの姿が園のあちこちで目に焼きついています。〃小羊の縁の下の力持ち〃でしたよね。心より 心より ご冥福をお祈りいたします。本当にありがとうございました。

・げた箱の前に おじちゃんが亡くなったことを お知らせする紙がはってあったのを見て りょうごやめいに その事を伝えると「うそ！」としんじられない様子でした。子どもたちのじいちゃんと同じお空に行ったんだよ、と言うと、「そっか～」とさみしそうでした。今日、朝みんなで手を合わせました。

・ごはんを食べる時お祈りをします。〃あっちがうちがう〃と〃おじちゃんが早く元気になりますように〃と…。涙が出てしまいました。子どもたちの気持ちがちゃんと伝わって きっとおじちゃんも元気に帰ってきてくれると思います。本当に大切な気持ちを教えて頂けてうれしいです。

・おじちゃん先生 いつも温かい笑顔をありがとうございました。

・おじちゃんの件にはびっくりしました。啓太もおじちゃんにいつも抱っこしていただき、本人もおじちゃんに飛びついていく程大好きでした。20日のお別れ会、都合がつけば参加させていただきたいと思います。

・松本おじさんの件、残念でした…長い間、早番等でお世話になった事感謝しています。侑汰には、キチンと伝わっているのか心配ですね。

【お別れ会に参加して】

H23年8月20日

おじちゃんのお別れ会ありがとうございました。紙面の都合上、一部割愛して掲載させていただきます。

《ロバ組》

・おじちゃんのお別れ会に参加して、たくさんおじちゃんのことを思い出しました。とても残念で、寂しかったけど…でも、「おじちゃん、ありがとう」と、きちんとお別れできて良かったです。おじちゃんがいないことが、まだ信じられず、思い出しては涙が出ます。「おじちゃん!!」と呼んだら、返事をしてどこからか出てきてくれる様な気がしますね…。おじちゃんの訃報を聞いたときは、まさか…と、驚きとショックな気持ちで言葉が出ず、元気な姿ばかり思い出していました。先生方も、悲しみでいっぱいなはずなのに、いつもと変わらず明るく接して下さり何と声をかけようか…と、言葉が見つからずにいました。でもおじちゃんのためにも、園の子ども達がいるからこそ、先生方も明るくいられるのカナ… さらちゃんも、おじちゃんが亡くなったということをしっかり受け止めている様で、おじちゃんの話をする時は、寂しそうに、「おじちゃん、苦しくなかったカナ…」と、時々目をうるませていました。去年、ひいおじいちゃんを病気で亡くしたので、その時に「死」というものを近くで見ていたこともあって、重なっているのだと思います。ママが、「おじちゃん、天国に行っちゃったね…」と聞くと、「うん…だけどずっと保育園にいるよ!!ずっとみんなのこと見てるよ!!鳥になって飛んでくるかもしれないし…」と素直なままの言葉が返ってきました。のんちゃんも、保育園に行き、おじちゃんに会う度に「大きくなったなぁ〜」と、頭をなでてもらっていたこと、ずっと覚えています。おじちゃんの優しい笑顔は、いつまでもみんなを見守ってくれていますね。

・おじちゃんのお別れ会ありがとうございました。お別れの節目ができました。でも何でおじちゃんは私の親でもおじいちゃんでもないのにこんなに悲しくて思い出すと涙が止まらなくなるのでしょうか…。なんでだろう。といろいろ考えました。きっとたくさんたくさんお世話になったのに感謝、お礼の気持ちを面とむかって伝えていなかったからなのでしょうね。子どもが卒園する時に伝えればいい…と勝手に思い過ごしていたのです。お見舞いだってそうです。子どもに言われました。「だから早くお花持って行こうって言ったのに」と。本当に悔やまれてなりません。そして今日救われた事。西谷牧師さんが、「おじちゃんは天国で一番すてきな場所に迎えられて幸せにニコニコしているよ。」と話されたことです。私は思い違いをしていました。おじちゃんがさみしがっているのだろうと。それは違ったのですね。あたり前ですよね。おじちゃんのような人が天国の中でも一番の場所に行けないわけがないですよね。でもおじちゃんきっとそこでも偉ぶってないんだろうなぁ〜 ただニコニコ 地上を見守っている姿が目に浮かんできます。先生方からのメッセージも読ませていただきました。口数の少ないおじちゃんからの一言一言。ズキッとしました。早番で泣いている子どもに「泣きたいだけ泣けばいい」親の手から離れ、おじちゃんの腕の中でジタバタする我が子のことが思い出されました。子どもから離れ、後ろ髪を引かれる思いで子どもの泣き声を聞いていたあの頃。私の心の中では「早く泣きやんで、泣かないで〜」と叫んでいました。でもおじちゃんは決して泣き止んでなんて思っていなかったのですね。「好きなだけ泣いて

いいよ」だから子どもはおじちゃんの腕の中が一番安心できたんですね。そんな気持ちで毎朝迎えてくれていたんですね。改めて感動しました。おじちゃんのやってきた仕事、本当に大きかったですね。これから少しでもそのお仕事のお手伝いができたらと思っています。まずは畑の草取りをしたいなぁ。先生何でも遠慮なく言って下さいね。少しでもお手伝いして、おじちゃんへの恩返しをしたいです。今日は本当にありがとうございました。

・長い夏休みが終りました。またよろしくお願いします。京介は元気に夏を過ごしました。兄姉といることが多かったので、大きい子の受け答えができるようになり成長を感じます。おじちゃんのお別れ会、ありがとうございました。いい会でしたね。おじちゃんはほんとにあったかくてでっかい人だったんだなって感じられました。京介は毎晩眠る前に手をくんで一日の感謝で小さいお祈りをするのですが いつもの言葉に加えて「神様、地球をお守り下さい」と言っていました。地球をお守り下さい～アーメンで終るようになってから あぁおじちゃんはいないんだなぁって。でもまだなんとなく病院にいてひょっこり園に戻ってくるような気がしていて それをお別れ会はきちんと整理してくれたような気がします。京介とふたりでおじちゃんの写真の前で ありがとうございます を言ったら涙が出ました。おじちゃんのからだはなくなってもおじちゃんが残していってくれたものは たくさんたくさん 園にも京介の中にも私の心の中にも たくさんたくさん残っています。ありがとうございました。京介は今朝も元気です。お友だちともいっぱい！遊べますね。

・出席できてよかったです。りくもしっかり感謝の気持ちを伝える事ができたと思います。

・土曜日はお疲れ様でした。「送る会」に出席して本当の事だと実感してしまいました・・・会の中でおじちゃんが「良い人、優しい人」は分かりましたが 本当に「してくれた事」は伝わっていない気がしました。私だけ知っている事、沢山ありますよ。

・おじちゃんのお別れ会、みんなでお別れできてとてもよかったと思います。ありがとうございました。智哉に「おじちゃんがいなくなってさみしいね」と言ったら「僕より翔子ちゃんの方がさみしがっているよ」とお兄ちゃんらしい言葉でしょ。

《羊　組》

・おじちゃんのお別れ会で、おじちゃんの死、もう会えないんだと実感しました。訃報を見た時、ふと、ひめとひなが星組の時のことを思い出しました。朝、園に行くといつも床に座って誰かが膝の上に座っていましたよね。ひめとひなもおじちゃん先生大好きでした。小さい時はおじちゃん先生と言えず、おじ先生と言っていました。（2人は覚えてなかった様ですが・・・）先月のお楽しみ会の頃、朝あいさつをした時、やせてしまって元気がないけど、大丈夫かなと心配になったのを覚えています。お別れ会でもらった「おじちゃんへのメッセージ」の写真を見て、元気がなかった顔しか思い出せなかった私は、これが本当のおじちゃんだと久しぶりにやさしい笑顔に会えて、涙が出てしまいました。本当に今まで子どもたちをやさしく見守ってくれてありがとうございました。

・子どもたち3人も参加することができよかったです。お空でみんなのことを見守ってくれていると思います。

・あやみは、「すぐおわっちゃった。もっと長いほうが良かったのに…」と残念そうでした。

・ゆったんは、キチンと理解出来ていないらしく、〝おじちゃん びょういんいったの〟と言っていました…。うちも…ひょこっと顔を出してくれるんじゃないかと思ってしまうくらい亡くなった事が信じられません。

・帰宅後、実家でおじちゃんの話をしました。ゆうちゃんもお世話になったので参加できてよかったと話しておりました。私も少しずつですが別れを受け入れられるような気がします。

《鳩　組》

・私は号泣だったのですが、柊伍にはおじちゃんが亡くなった事が理解出来ていない様でした。

・おじちゃんのお別れ会、参加させてやることができ、良かったです。本当に子どもにとっても親にとっても大切な人でしたね。うちはパパやおじいちゃんとも一緒に暮らしていないので、おじちゃんの存在は大変大きかったです。これからも、優しいおじちゃんの膝で育ったこと、伝えていきたいと思います。

・土曜日の夜、突然まーくんが振り返り「ママ、だから早くお花持ってお見舞いに行こう！って言ったのに…」と。語りかけたまーくん。私がパパにお別れ会の日の報告をしていた時のことです。まーくんの言った通りです。悔やまれてならないことです。思いたったら すぐ行動する！大事なことです。おじちゃんとは関係ないことですが、昨日少し時間が空いた時に家族みんなでお墓参りに行きました。（早川家の）お盆にも行ったばかりでしたが、お墓に手を合わせると、何だか気持ちがスッキリするのはどうしてでしょうか…。気持ちが落ちつきました。

・本当に優しくみんなに愛されつづけたおじちゃんに出会えた事、本当に嬉しく思いました。みなさんのお話をきいていると、笑顔がたえず、優しい穏かなおじちゃん。おじちゃんのお別れ会なのに…なんだか私はおじちゃんに励まされた様な気がします。いろいろ悩んだりする事もあるけれど、そんな時は、優しいおじちゃんの笑顔を思い出して、頑張っていこうと思いました。おじちゃん本当にありがとう。

・心温まるお別れ会でしたね。子ども達は市川先生、牧師さんのお話をじっと聞いていましたね。子ども達がおじちゃんへの感謝の言葉を言っているのを聞いていて、涙が止まりませんでした。おじちゃんの人柄がにじみ出ていて、良いお別れ会でした。帰りにお花を頂き、美喜が「おじちゃんのおはなもっていく」とずっとお花を持っていて、家に飾ると「おじちゃんのおはな、きれいだねー」と喜んでいました。その後スイミングがありましたが、残念ながら終始プールに響く大きな声で泣いていました…。

・おじちゃんのお別れ会の朝、支度をしていると、りのが突然「おじちゃんすき？」と聞いてきました。うん、すきだよ～と答えると「りのちゃんもおじちゃん大好き!!」とニコニコしていました。笑顔でおじちゃんの事を思い出してちゃんとお別れしようとしてるのかな？と思いました。ありがとうございました。

《小鳩組》

・おじちゃんのお別れ会、みんなでお別れできてとてもよかったです。ありがとうございました。翔子は「おじちゃん、神様のところへ行ったの」と言っていました。幼いながらにわかっているんだなと思いました。

・おじちゃんのお別れ礼拝でいただいたお花を飾りました。ゆうまくんお花を見るたびに「お花かわいいね」と言います。おじちゃんのお花だよ、と言うと「うん」分かっているのか少し寂しげでした。でもお星さまになって見てるよ、と言うと「見てるの～？」ちょっとうれしそうでした。

・土曜日はありがとうございました。おじちゃんフォーエバー 忘れませんよ。おじちゃんが小羊にのこした心。

・市川先生のおじちゃんの生い立ちを聞き感動しました。讃美歌や子ども達の「思い出のアルバム」を聞いた時は涙がとまりませんでした。雄紀や遥紀がとてもかわいがってもらい膝の上によくすわっていたのを思い出したり、温和な顔が走馬灯のように頭の中をかけめぐっていました。瑞穂も朝行くと「みずちゃんおはよう」とよく声をかけてもらっていました。

今後顔を見ることはできませんが私の心の中ではいつも笑顔のおじちゃんの顔を思うことができると思います。うまく自分の気持ちがまとまりませんが今日「お別れ会」に出れたことはとてもよかったです。ありがとうございました。

・今でも、おじちゃんが亡くなってしまったのが信じられないです。早番で、お姉ちゃんの時からお世話になりました。おじちゃんへのメッセージを読んで、本当に皆から愛されてるなと思いました。今まで、おじちゃんが、やっていた力仕事は、先生方だけではなく、保護者も一緒にやっていけたらと思います。おじちゃん、今までありがとう。

・たくさんの人が集まり、今までのおじちゃんの人柄を改めて感じました。おじちゃんとの別れを受け入れられなかったのですが、お別れ会の皆様の話を聞き、少しずつ受け入れられるような気がします。そのためにもと思い、あの日の夜は思いっきり泣きました。

・お別れ会の日の夜、心穏が紙と鉛筆を持って来て、「おじちゃんに書く!!」と言って何かを書いていました。そのうち「おじちゃん、ありがと、おじちゃん、ありがと」とずーっと言いながら書いていました。もう何回言ったか分からないくらい繰り返していました。お別れ会に出席させて頂き、心穏も何かを感じたのでしょう。 保育園に入りたての1才前の心穏。いつも早番の時、不安そうでしたね。でもあの魔法のおじちゃんのお膝でニコニコのスイッチが入りました。誰かが先に座っていると焼きもちをやいておじちゃんを避けていた心穏。「やきもち」って感情、初めて味わったんじゃないかナ。そんな時決まっておじちゃんは心穏の為に席をあけてくれました。心穏は幸せでしたね。そんな心穏も今は、おじちゃんのおかげで園にも慣れ、早番でも元気いっぱいでした。本当におじちゃんにはお世話になりっぱなしでした。これからは天国で皆を見てて下さいね。働き者のおじちゃん、少し、ゆっくり休んで下さいね。

・金曜の夕方から急に熱を発したみれは。熱はぐんぐん上がりついに39度。明日のお別れ会参加はムリかなと床に入りました。朝になると36度台に。どうしてもちゃんとした形で 親子共々 おじちゃんに「さようなら」をしたかったので 土曜日はみれはの体調をみながら参加させてもらいました。後方の席での参加となったため、礼拝の流れに入れず、はしゃぎ出す みれはとまさちか。病院受診もあったため、途中で退席しました。思うようなお別れを2人にさせてあげられず心残りで帰宅しました。夜、2人は、おじちゃんのことをどう感じているのだろうと思いながら いただいた「おじちゃんへのメッセージ」を読んでいると、「わらっているおじちゃん！」とみれは。まさちかも「わらっているおじちゃん、わらっているおじちゃん!!」とおじちゃんの写真をとりあう2人。そんな2人の姿をみた瞬間：「おじちゃんは2人の心の中にしっかり生きているんだ」と思い、自分もおじちゃんの死をのりこえることができました。礼拝へ参加させていただきありがとうございました。

・お別れ会ありがとうございました。役員の集まりの時におじちゃんの体調が良くないことをママ先生から聞き、早く良くなることを願っていました。私達親子はまだお世話になって何ヵ月かですが、本当におじちゃんの存在には感謝しています。子どももおじちゃんの写真を見て、「先生!!」と言ってニコニコしているので、遊んでもらったりしたのかな。うちはパパもお世話になっているので、家族みんなでお別れ会に出席できて良かったと思っています。これからも天国で子ども達を見守ってくれていると思うので、不思議と安心感があります。本当に、ありがとうございました。

《光　組》

・お別れ会に出席できてよかったです。るいがチョロチョロしていて聞こえない事が多かったのですが、あらためて、おじちゃんのやさしさや存在の大きさに気付きました。

・おじちゃんのお別れ会に参加させて頂きありがとうございました。みんなに優しくする心をもつというのは、とても大変な事だと思います。でも、おじちゃんは、それを実行した人です。おじちゃんの笑顔も…おじちゃんの人生の中の少しの時間でも一緒にすごせて本当にうれしかったです。ゆうちゃんもおじちゃんの様に優しい心、ゆるす心、笑顔を忘れない人になってほしいです。おじちゃんありがとう。

・土曜日のおじちゃんのお別れ会は、お世話になりました。ホールのおじちゃんの写真を見るだけで涙が出てきてしまいました。本当に、いつ見てもやさしい笑顔をされていたなぁ、と思い、私もそうできるかナ、と考えました。啓太は元気です。

・土曜日はお世話様でした。とても心に残る礼拝でした。ありがとうございました。

・土曜日はおじちゃん先生とのお別れがちゃんとできましたね。るいくんもみんなと一緒にうたを口ずさんだり、「アーメン」とお祈りしたりしていました。

【おじちゃんサンタのプレゼント】

H24年11月

・「えっ、一人に一冊づつ!!」と、ちょっとおどろきました。一家庭に一冊でもありがたいのに…でも、家に帰って一人一冊の意味がわかりました。帰って早々、夕食もとらず「おじちゃんせんせいの本読んで、読んで」と子ども達。一人の絵本を手に取り2人の子どもに読み聞かせ。読み終わり「さあ、食事」と、立とうとするともう一人が自分の持っていた絵本を見せて「今度はみれね」と言う。私には同じ絵本でも子ども達には、それぞれの絵本なんだなと気付かされました。双子なので、ついつい同じものは1つでいいんじゃないと考えがちな私。この絵本をいただいたことで、子ども目線に立つという大切な事に気づくことができました。いただいた絵本は、それぞれ子どもが巣立つ時、持たせてやりたいと思います。

・素敵な絵本ですね。読んでいくうちに、いろいろな事を思い出しました。たくさんの人にぜひ読んでもらいたい。

・手に取ってみると「ああ やっとできた」という思いと、「早かったなぁ」という思いがあり、おじちゃんの思い出や市川先生からの絵本製作の経過報告の姿が走馬灯のようにかけめぐってきました。そして、おじちゃんとの大切な思い出をこんなに素敵な絵本にしていただけて、感謝の気持ちでいっぱいです。

・山本先生の講演会も聞いたので、いつも以上に絵がきになり、よ～くみてたら、小さなバッタがいたり、発見があっておもしろいです。

・心暖まる絵本を有難うございました。さっそく家に帰ってから、おばあちゃんも交えてみんなで読みました。

・ときおり「クスクスッ」と笑いながら、楽しそうに読んでいました。

・お気に入りの一冊となったみたいです。お兄ちゃんも聞いていて、読み終わると「あーだから保育園は花がいっぱいあるんだね」とはなしていました。

・あとがきを読んでいたらまたおじちゃんの姿がよみがえってきて目頭が熱くなりました。本当に不思議ですが、おじちゃんがいつまでも心の中に生きています。このすてきな本によりおじちゃんの心が世界に飛び立ってくれると信じています。

・おじちゃんの様にやさしい本で、おじちゃん先生の存在の大きさをあらためて実感しました。

・夜寝る前に蒲団の中で読みました。美喜もじっと聞いていて「みきも赤ちゃんの時、おじちゃんにいっぱいだっこしてもらったよ」となつかしそうに云っていました。これから大きくなっても美喜の心の中にやさしいおじちゃんがいてくれると思います。

・涙が出てきました。本を手にしたよろこびと、おじちゃん先生の心の大きさを強くかんじました。二人とも大好きな本でけいたくんをしゅうへいくんにして読むと、すごくよろこんで空に手をふって、おじちゃんに伝えていました。

・早速、早速「ママよんで～名前は代えてね！」とリクエストされ、不思議な不思議な気持ちで一緒に読みました。内容は知っているのでしょうね、とても細かい絵のことを説明してくれたりして、なかなか進まない。自分が絵本の中に入っているような気持ちになりました。
添えられていたお手紙を読んで、また涙です。私の中では楓の5年前、まーくんの4年前のことが思い返されました。かわいい盛りの我が子の姿。歩くことも、しゃべることもやっとの我が子を、いつもの笑顔で毎日迎えてくれるおじちゃん先生。言葉数は少なくても、どれだけ心で助けてもらったことか…今でも赤ちゃん組に入っていくと、あのおじちゃんの、あったかい温もりを感じます。きっとずっと前から小羊の先生方はみんな同じように子供達を迎えてくれていたんですね。

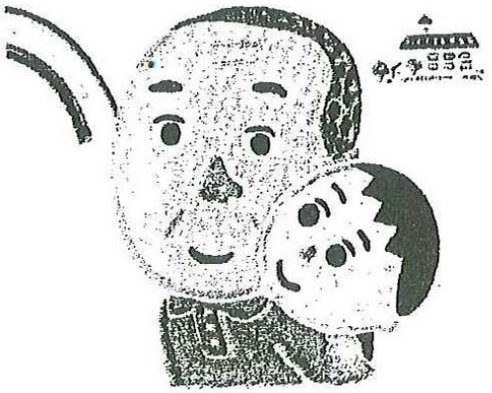
・2、3けんの本屋さんにさがしてみましたけど、みつかりませんでした。それをもらうなんて、ほんとうにありがとう！

・おじちゃん先生の絵本♡ありがとうございました。表紙を見たとたん涙があふれてきました。さっそくももちゃんが「おじちゃん先生だー!!」と言って絵本をひとりじめして読んでいました。絵本に「ももちゃん」という女の子がでてきて、すっごくうれしそうに喜んでいました。
ほんの内容、絵ともにすばらしく、とても感動しました。一生の思い出の絵本だと思います。大事にしていきたいと思います。

・ねる前に読んであげました。保育園の子の名前におきかえてあげると、笑いながらよく聞いていました。「バッタ！セミ！」絵を見て指さして教えてくれました。おじちゃん先生がいなくなってもこの本のおかげでいつまでも子供たちの心におじちゃん先生の姿がよみがえってきますね!!
朝も起きると、ねぼけながら「おじちゃんは？」と（笑）夢に出てきたのかなぁ…

・おじちゃん先生の本を読み聞かせていて、私が泣いてしまって…啓太に「お母さん大丈夫かい」と心配されました。

・読んでいるとおじちゃんが園に居た頃を思い出し、感極まって読めなくなってしまいました。星組の時から昼寝をしなくて、よくおじちゃんが抱っこ、おんぶをしたり、砂場で遊ばせてくれていたと聞いていました。早番の時には園に着くとすぐおじちゃんの膝の上に坐って、園から帰る時には駐車場に居るおじちゃんに抱きついていつもニコニコ笑っていました。おじちゃんの存在は今でも大きいですね。美喜も絵本を読んでいて、おじちゃんと過ごした日々を思い出してくれていると思います。



Ⅲ　その他の方々の声

【行田職員より】

・おじちゃんが亡くなってから、玄関には、おじちゃんの写真がかざられています。写真のまわりには、いつも四分一先生がユリの花をきれいにかざって下さり、畑でとれた お供え物がしてあります。行田の職員は、朝 出勤すると、おじちゃんの写真に向かって「おじちゃん、おはよう！」帰る時には「さようなら！また明日ね！」と声を掛けています。おじちゃんが入院してから、四分一先生の声掛けで、職員が毎日、交代でお見舞いに行くことを決めました。はじめは、起き上がって話をすることができたのに、日に日に調子が悪くなり、酸素マスクをして、口をあけたまま、ベッドに横になっているおじちゃんがいました。本当に悲しくて、涙が止まりませんでした。おじちゃんは、保育園のために、本当に色々な事をして下さいました。「おじちゃんはこんなことしてくれたよね・・・」と次々と話が出てきます。私もおじちゃんがやってきてくれたように、自分にできる事、人のためになることを考えて生活して行きたいです。

横藤愛香

・おじちゃんが亡くなってから今まで、何気なく生活していた中で「あ、これはおじちゃんがやってくれたな」「おじちゃんいないんだな」と感じる場面が多々多々あります。また、早番で赤ちゃんや小さい子を可愛げに抱っこしていた姿、病気で痩せてしまっても赤ちゃんを抱っこして嬉しそうな笑顔のおじちゃんの姿を今でも思い出します。子どもが好きだったおじちゃん、これからも見守っていて下さい。これからは、おじちゃんがいない中、沢山の行事を迎えますが、おじちゃんが、やって下さった事を、みんなで協力し合い、自分も頑張って行きたいです。

山下滋子

・おじちゃんに研修の度に車に乗せて頂き、ジェットコースターのような、運転に楽しませてもらいました。思い出をいっぱいありがとう。

間竹陽子

・おじちゃんが亡くなってしまったのが、今でも信じられない気持ちです。おじちゃんの歩くスリッパの音が聞こえてきそうで、おじちゃんには、いい間、給食を手伝ってもらい、毎日、「美味しい？」と聞くと「うん、美味しいよ！」と言ってくれました。そんな何気ない会話も今では懐かしく思います。おじちゃん、今まで本当にありがとう！

伊藤智子

・神様のところにいってしまったおじちゃん。姿かたちは見えませんが、おじちゃんの気配りは、ずっと感じることが出来ますよ。おじちゃんはいつも、「わし、若いで」と笑顔で話していましたね。それから、「無理せんでいい」と事あるごとに声を掛けてくれて、いっぱいになった胸がすっと楽になったこと、ずっと忘れません。子ども達も私達も言葉や文字で表わせないくらい、沢山の思い出を宝で頂きました。おじちゃん、おじちゃん、本当にありがとう。これからも私達を見守って下さいね。

髙橋とき子

・いつも星光のところの丸柱のところに座ってにこにこスタンバイ。入れ代わり立ち代りおじちゃんのお膝で充電して遊びだす星光組さん。おじちゃんのお膝はいつも満員でした。また、行事の時、卒園児一人ひとりに、「良く来たね、元気かい？」頭を撫でてにこにこ迎えてくれました。いつもにこにこのおじちゃんの笑顔、いつまでも忘れません。おじちゃん、ありがとう。

持田光代

・おじちゃんとの思い出は沢山あって時には・・・・したけれど、沢山助けてもらったこと、心から本当に感謝しています。一番は一緒に保育したこと。おじちゃんが大好きな子ども達の安心の場所。みんなお膝に座ってにこにこ。着替えや授乳、給食のおかわり、片づけ、何でも出来ちゃうスーパー保育士でした。(笑) 自分の食事も後回しにしたり、「いいよいいよ、大丈夫」と、子ども達をトントン。いつも声を掛けてくれ、助けてもらい心が救われました。みんなが大好きなおじちゃんが、いつも傍で見守ってくれていると信じて頑張ります。

城山あずさ

・朝、いつも早番の時は鍵を開けていてくれたおじちゃん。「おはよう」と言って笑って挨拶してくれたおじちゃん。今は早番で来ると鍵もかかったままで寂しいです。洗濯物をたたんでくれたり、保育園の壊れているところをすぐ、直してくれていました。また、泣く子を膝の上にのせて、いつも可愛がってくれていました。病院では、お孫さんが来ていてとても嬉しそうに笑って話していた姿を思いだします。寝たきりになっても、話も出来なくなり先生方が話しかけると目を開けたおじちゃん。熱があり、水枕をしていた時、手を握るとおじちゃんの体温が伝わってきました。そのおじちゃんが、今、ここにいないこと、とても信じられません。今でもどこからか、出てきてくれるのではないかと思います。私も、子ども達に笑顔で保育していけるよう、心にとめていきたいです。

君山杏奈

・毎朝、保育園に一番に来て、鍵を開けて下さったおじちゃん。早番で保育園に来る度におじちゃんの姿がないと、寂しく思います。去年の運動会では頑張りリレーで一生懸命走り、おじちゃんからバトンをもらった時のことを思い出すと、いっぱいいっぱいの体で、最後の力を出し走って下さったこと、胸がいっぱいになります。毎日笑顔で過ごしていたおじちゃんを見習い、子ども達と毎日笑顔で過ごしていきたいと思います。

長谷部裕美

・おじちゃんはいつも朝早く保育園に来て、鍵を開けて下さいました。早番で「おはようございます！」と挨拶すると「今日も暑いね」と言って一緒に洗濯物をたたんで下さいました。おじちゃんの楽しいお話を聞くのが好きでした。おじちゃんが入院してお見舞いに行った時、ベッドの上で寝たきりのおじちゃんに声を掛けると、目を開け、手を握ると強い力でぎゅーっと握り返してくれました。そんなおじちゃんがいないことが、本当に信じられません。いつも笑顔で優しく子ども達に大人気だったおじちゃん。私も笑顔を絶やさず、子ども達と一緒に成長して行けるよう頑張っていきたいと思います。

武井沙織

・ずっと前、私が鳩組を担任していた時、不安でいっぱいだったけれど、沢山助けて頂き、何とか1年過ごすことが出来ました。そして、何でも頼むとすぐにやってくれる優しいおじちゃん。すべてを支えてくれていた、大きな存在だったこと、思う日々です。ありがとう。

細井君子

・おじちゃんに早番でお世話になることが多かったのですが、泣きやまない子をぎゅーっと抱きしめて「泣きたいだけ泣けばいい」とあやしてくれた姿。傍をくっついて離れなかった子が、大きくなり来なくなると、寂しそうに「もう卒業だな～」とつぶやいていた姿。おどけて「ちょっとそこまで遊びにいってきたよ」と言い、遠い京都や鳥取まで車で出掛けたことを、楽しそうに話すおじちゃん。そんなおじちゃんが、病気になり、体が動かなくなり言葉も出せなくなって…お見舞いにいき、手を握るとこちらをじっと見てくれたおじちゃん。沢山、助けてもらうことが多かったです。パソコンも分からないところがあると、二人で考えて、解決し、一緒に喜んだこと、今でも忘れません。おじちゃん、ありがとう。

久保田友恵

【三鷹職員より】

・子どもの頃、バイクの後ろに乗せてもらったり、お祭りで色々なものを買ってもらったり、とても優しい叔父でした。お小遣いをもらうのも、嬉しかった。「人に善いことをし、何もあてにしないで貸しなさい」（ルカ 6:35）の聖句はおじちゃんそのもの。私もそうありたい。

市川ルミ

・何をするにも黙ってやって、けっしてやってあげたとは言わない。本当の「縁の下の力もち」だったと思う。自分もそうなりたい。目標です。

土持正男

・6月に三浦からの帰り、（お掃除にきっと行っていたのでしょう）我が家にも沢山の茎わかめを持って来て下さり（冷凍出来ることも教わり）その茎わかめを先週まで美味しく頂きました。

永島智子

・花の日訪問や卒園足、三浦研修ぐらいでしかお会い出来なく、もっとお話しをしたかった。いつも笑顔で後ろからみんなを見守っていてくれていた。

高橋明日香

【小羊保護者】

「おじちゃん先生ありがとう」

園行事の駐車場当番、何度かおじちゃんと一緒になって　立ち話をした事があった。

「こっち（関東）の寒さはどうも慣れない」とか「ワシの小さいころはなぁ、オヤツと言ったら山で採った果物でなぁ」とか、おじちゃんの声となまりで聞くと絵本を読んでもらっている様で、毎回一緒になるのを楽しみにしていた。

最後の入院「明日何が有ってもおかしくない」と聞いて、病室まで教えてもらったのに顔を見に行かなかった。おじちゃんの悲しい姿を見たくなかったし、おじちゃんも見せたくないだろうな、と思ったからだ。

おじちゃんが亡くなった後、保護者会の中から「親子遠足で何か手伝いたい」や「先生が大変そうなので、畑の草取りを手伝ったらどうか？」等、園に協力的な声が増えた。そういった一つ一つの気持ちや声の中に、おじちゃんがまだ生きているのだと感じた。これからも心の中のおじちゃんが消えないように努めていきたい。

そんなおじちゃんが絵本になった。絵本の中にはいつも見慣れたおじちゃんがいた。園児とおじちゃんの交流を通して、生と死のつむぐ物語を誰にでも感じられる様に完成させて下さった村尾先生と、おじちゃんの人柄が浮き出る、やさしい絵を描いて下さった山本先生には心から感謝します。そして、おじちゃんが過ごした小羊チャイルドセンターと市川先生には感謝以上の気持ちです。

最後に、おじちゃんは私にこんな話を残してくれました。

「今の子どもはかわいそう、小さな時から保育園に預けられて、大きくなればＴＶゲームばかりでしょ…ワシの小さい頃はなぁ…」この言葉に自分の親としての至らない部分を痛感し、おじちゃんの心の豊かさを思いました。

おじちゃん先生ありがとう、背の低いコスモスが園にそよいでますヨ。

大熊　武文

【絵本を頂いて】

・「おじちゃんせんせい　だいだいだーいすき」を幾度となく開き読み返しました。涙しました。心を洗われました。自分のあゆみを振り返り、心を洗われたのです。それが即、涙となったのです。おじちゃんせんせいに只々敬服し、感謝の意を表します。有難うございました。

・心の芯までポカポカとぬくもりました。

・なつかしいと言うか？　あったかいと言うか？　言葉がみつからないけど何とも言えない。うれしかった。泣けてしかたなかった。

・絵から伝わるこの気持ち、表現出来ないけれど、感動で一杯。今度は〇〇先生ね。

・最近の事件、胸が悪く不愉快な思いもある一方でこんなお話もあり、人間は限りなく残酷にもなれるし、際限なく優しくもなれるのですね。

・人のあたたかみを素直に感じられる内容ですし、先生のお働きが神に祝福され導かれてることを覚えます。

・やさしい涙がにじむような気持ちになりました。

・実話に基づくものとして直接に関わった園児くんにとっては、おじちゃんとのことは貴重な幼児体験として生涯を支えてくれる宝ものになると思います

・どう子供に接していいかわからず困惑している多くの母親にとって、おじちゃんの接し方は一つの光でしたね。市川先生の保育方針の実現だね。

・実は絵本の届く前日の夜、小羊のホームページをひらき、おじちゃんの絵本のことを知りました。お電話してみようと思っていたところ、次の日絵本が届きました。びっくり!!　前の夜　私のつぶやきを聞いた娘が「ママ何かすごいね」と言ったほどです。
こみ上げる思いをおさえながら、ゆっくりとページを開き何度も読み返しました。いつも子供達に心も身体もよりそってくれた おじちゃん、そして今なお子供達や保護者、先生、多くの方々（私もそのひとりです）の中で生き続けるおじちゃん　まさに主イエスさまと同じだなあと思いました。
さっそくタンポポの子供達にもおじちゃんを読み伝えていきたいと思います。

・小さな子が身辺にいないこともあり絵本とはすっかり縁遠くなっておりましたが、こうして手に取ってみると、何ともいえない清々しい気持ちになっている自分に大変驚きました。

平成24年11月30日 記

聖路加国際病院
理事長　日野原重明 氏

特集

「おじちゃんせんせいだいだいだーいすき」

平成25年3月
言語グループ

平成24年11月に「おじちゃんせんせいだいだいだーいすき」が発行されて四ヶ月、未知の方々、知人の一人一人から、そして知人を通して又、知人の人へと伝わり、本当に多くの方々のお礼、感想を頂いています。
二学期の特集につづきパートⅡとして園児家族を中心のアンケートでしめくくりたいと思い、皆さんからのお声を頂き、まとめてみました。
ご協力ありがとうございました。

Ⅰ　アンケートより

回答　三鷹　47名
行田　81名　合計　128名

▲絵本について一言

・一生の宝。感謝。思い出よみがえり。おじちゃんソックリの山本先生の絵。(三鷹　14　行田　47　計　61名)

・すばらしい絵と文。いやし。泣ける。思い出す。ほのぼの。暖かい。言葉にならない感謝。思いやり。小羊の行事が浮かぶ。
(三鷹　23　行田　31　計　54名)

▲初めて読んだ時の感想は?

・園児から愛されて。愛情とは。生き方に学ぶ。純粋さ。いやし。実在の人物。親しみ。思い出と重ねて。季節感の中。会ってみたかった。題名が子どもに受ける。(三鷹　39　行田　61　計　100名)

・よくわからない(2名)

▲初めて子どもに読み聞かせした時の子どもの様子は?

・知っていた喜び。(園で読んでもらった)じっと見て、聞いている。ウルウル。目がキラキラ。絵を指して内容を告げる。内容理解して。リクエスト要求。好きな場面の暗唱。素読みできる。また会えるね。サンタで来てくれて嬉しい。悲しいね。
(三鷹　38　行田　61　計　99名)

▲その後の子どもの様子は?

・何度読んでも。好きな場面。内容理解して口ずさむ言葉。空にいるおじちゃん信じて。空をあおいで。手を合わせ報告。近くにいると!!又来てねサンタさんで。友だちに紹介。自分の本として大切に。カバンの中身言える。なんで?(死)
(三鷹　30　行田　57　計　87名)

実在する園を見学報道等より

▲遺影の前で語らう人々（職員より）

・遺影の前でポロポロと泣き出す子、とりとめもなく涙が出るからですと…小さかった時の思い出が思い出されて、涙…だけ、また来ますと。

・おじちゃんには大変お世話になりました。忘れたことはないです。気の強い娘2人を泣いてはなぐさめてくれたり、本当に大きくしてもらった。月に1回ぐらいおじちゃんに献花させて下さい！と…いつももってきて園の中をぐるりと先生達とお話ししたりと…

・小学生の卒園児が帰りに立ち寄り、おじちゃんの遺影の前で手をあわせていくこと数人―。

・泣いている子をあやし、あやし終わると事務所に。いつも園長先生がすわっている場所へ。「わかんないんだよなぁ～」おじちゃんの方がココロの保育士だ!!と心の中にある子どもの気持ちをキャッチするのが早く、いつも感謝でした。「四分一さん　なぁ～」と時々はぐっとくるときもあったでしょう―。

・Mはいつも朝になると花をつんでおじちゃんにあげるの!!といつもありがとうの気持ちでいるんですと話しています。Mの心の中では、おじちゃんが生きているんですねーと

・亡くなる前の数カ月前4月頃、コスモスを植えかえていたりしている時に、サツマイモの苗も植えたりおばちゃんとその時に何回も―「おじちゃんやめて下さいよ」「お医者さんへ早く～」すると「大丈夫、動いている方がいいんだ。腸がこうして活発になってなぁ～でもお腹はすかないんだよ～なぁ～」と。

・亡くなる一ヶ月前、朝出勤し事務所へ、「四分一さんなぁ～。水筒に水を入れて持ってくるけど、水一口入れただけでも、コロコロお腹になるんだ～まったくなぁ～。迷惑かけるなぁ～」と…何回も言っていて、そんなことないヨ!!お互い様、早く元気になるように…といつも思っていました。もしや…???

・網戸が壊れればすぐなおして下さったり、日曜大工はすべておじちゃん―。本当に感謝です。あれもこれも嫌な顔一つせず頼めば次の日には出来上がったり、修理して下さったり小羊にとって大切な人を亡くして残念でなりません。

・個人的かな、家庭のこと職場のことなどお話ししてくれましたね。でなぁ…でなぁ…でなぁ…胸がつまることもありました。

・今現在は、玄関入ったところにおじちゃんの遺影があり、いつも見守っていて下さいねと、職員の気持ち。子ども達、職員、保護者、夜の見まわりまでお願いし、「帰ります」どんな時にも笑顔でむかえ「おつかれさん」と言われている様です。私達の心の中にも生きていますね。ありがとう。

・おじちゃんと四分一先生の会話、おじちゃんの鳥取弁が私たちには理解されなくて、四分一先生とは通じ合っていたので、いつもすごいなぁ～と思っていました。

・おじちゃんが廊下を歩くスリッパの音…今でも思い出します。

・おじちゃんが子どもを見る時のやさしい目。子どもが大好きでかわいくて仕方がない様子が伝わって来ました。

・おじちゃんにコチョコチョ（くすぐられる）されるのが楽しくて、わざと近寄っておじちゃんの気を引こうとする子ども達。
・おじちゃんが亡くなったあとに頂いた、おじちゃんのスイカ…あの味は忘れられません。甘かった～。子ども達も強く印象に残っていますね。
・おじちゃんが早番の時、赤ちゃんを膝の上に乗せレゴブロックを積み上げて遊んでいる姿。
・早番で子どもたちが登園する前に、洗濯物をたたみながら鳥取での思い出話を話してくれたこと。
・アスレチックを解体したり、お楽しみ会前に砂場・芝生の園庭にビニールシートで屋根を作ってくれたり、なんでも屋のおじちゃんだなといつも思っていました。
・おじちゃんは寝る部屋にテレビを沢山置いて全部つけたまま寝るということがとても驚きました。
・光組の担任だった時、おじちゃんがお手伝いに入って下さり、泣いている子どもを抱っこして優しくあやしたり、膝の上で嬉しそうに遊ぶ子どもの笑顔とおじちゃんの笑顔は今でも忘れません。
・早番の時にいつも丸柱の所で子どもを抱っこして遊んでいる姿。おじちゃんのひざは次々とみんな空き待ちでした。
・お昼寝がいやで泣いている子を、色々はなしながら手をつないでお散歩してくれていました。
・おじちゃんにベッタリだった赤ちゃんが、成長し、おじちゃんベッタリ～離れていく子ども達に「もう卒業だなぁ～」と少し寂しそうな笑顔。でも次の日には、もう違う赤ちゃんがベッタリ…人気者でした。
・土曜出勤の朝、必ず「ご苦労さん」と顔をだし「ちょっと出てくるんで～」と車のカギをもってニコニコ…「どこに行くの？」と聞くと「ちょっとそこまで…」と嬉しそうに出かけていくおじちゃん。今でもその後ろ姿、思い出します。
・小羊クリスマス前になると、おじちゃん手作りのイルミネーションを飾って下さり、子ども達が喜ぶ姿を嬉しそうに見つめていた姿。
・乗り物は苦手と言っていたおじちゃんですが、車を運転し「ちょっとそこまでいってきたよ」と鳥取まで行ったことを楽しそうに話してくれた姿。
・餅つきで使う大きな臼を、一人で軽々と転がして運び出す姿。感謝でした。
・泣いている子を優しく受けとめ抱っこしている姿や、子どもを膝の上に座らせて静かに見守っている姿。
・いろいろの仕事をしてきた話、楽しそうに話して聞かせてくれました。
・朝、泣いている子がいれば膝にのせて絵本を読む姿。膝が2つ2人の子どもをのせれ、ホラホラ…とあやしたり、その子の心境をきく。
・後ろにいつもいて、見守ってくれている姿が印象。
・職員会の時にうた…讃美…誰だ～という声の高さ、オンチの声!!今でもしっかりと記憶しているよ。
・早番で登園し、おじちゃんだったら泣きやむ（最初に受けるのにあたり）

▲朝日新聞、毎日新聞、山陰中央新報等を代表して
ずっと「おじちゃんせんせい」　小林一茂　様
（下記参照）
後日談として、各紙の上司より取材記事を誉められたとのこと。

▲教育関係者向け雑誌「この本だいすき」（代表　小松崎　進　様）に掲載された記事を一部抜粋してご紹介します。

・保育士とか経営者とか、そういう立場の方では無く、人生の晩年を何か人の役立つことをしたいと考え、知り合いの保育園に勤め、花壇を作り、四季の花々を子ども達と共に楽しみ、野菜畑を作り、給食の食材を提供するなど、子ども達の成長をそっと応援し、コツコツと静かに作業をしている方でした。ところが、その方の側には、いつの間にか話を聞いてほしい父母や祖母や卒園生徒達が集まり、一緒に作業をしながら、悩みや苦しみを語って行くようになったといいます。

そしておじちゃんせんせいが休憩で座ると、その膝の上には、いつも絵本を持った子ども達が先を競うように集まって来ました。子ども達にとって、おじちゃんせんせいの温もりは大きな大きな宝物だったことを知りました。

せんせいは平成二十三年の七月に末期の癌で他界されましたが、その遺影の前には、一年たった今でも園児からの野の花のプレゼント、卒園生や父母達が休みを利用して語りかけて行く姿が見られるといいます。

埼玉　石見　10版　2012年(平成24年)11月29日　木曜日　朝日新聞

ずっと「おじちゃんせんせい」

江津市都野津町の作家村尾靖子さん(68)が、埼玉県の保育園で「おじちゃん」と慕われた男性と園児たちの交流など実話を基にした絵本「おじちゃんせんせいだいだい だーいすき」（今人舎）を出版した。

園児と用務員の交流、絵本に

男性は、村尾さんの講演を通して交流がある保育園「行田子羊チャイルドセンター」（行田市）の用務員だった松本儀重さん。昨年7月、病気で70歳で亡くなるまで遊具づくりや庭木の枝切り、給食の手伝い、園児たちの写真撮影、泣きやまない子をおんぶしての散歩など、何でも器用に対応した。松本さんがあぐらをかくと、園児たちは競うようにひざを取り合った。

村尾さんは、そんな心温まる触れ合いの数々を、松本さんの姉で保育園を運営する社会福祉法人「こひつじ会」理事の市川益子さん(85)から死後に教えてもらった。心を打たれて出版社勤めの知人に相談すると、絵本作りが決まった。

保育園玄関の松本儀重さんの遺影の周りには、卒園児らの花束や手紙が置かれている＝埼玉県行田市若小玉

絵本を出版した村尾靖子さん＝江津市都野津町

卒園生の手紙や花束、遺影に

絵本は32ページ。おかあさんが恋しくて泣く子どもをおんぶし、「がまんせんでええぞ」と優しく見守る。運動会や農作業に一緒に取り組み、園児たちと仲良くなっていく。だがある日、元気がなくなったおじちゃんせんせいは、いなかのうちに帰っていく――。イラストレーターの山本祐司さんが優しいタッチで描いた。

松本さんは晩年、体調がすぐれなくても保育園に来て2階の応接間で横になって、園児たちの元気な声に耳を傾けるのを楽しみにしていた。市川さんは「子どもたちと心でつながり癒やしになっていたのかも」。亡くなった後、小学生や高校生らの卒園児が手紙や花束を持ってきてくれるのをみて、そう感じたという。

村尾さんは亡くなる数日前に保育園を訪ねたとき、松本さんが「また会いましょう」と見送ってくれた姿が忘れられない。「園児たちに愛情を注ぎ続けた、彼の生き方を伝えたいと思った。多くの人に読んでもらえたら」と話している。1470円。書店で購入できる。（小林一茂）

おじちゃん先生は現代の忙しい世の中が忘れかけている心を届ける人だったのだと思えました。

村尾靖子　記

▲保育者関係者より

鳥取こども園　施設長　藤野興一　様

・保育園の日常的な背景の中に人間の温かさを感じました。そして、こどもたちにも幅広く読まれやすい内容であると思わされましたが、その中には惜しみないこどもへの「愛」が描かれている事に気付かされました。

当法人『鳥取こども学園』のキリスト教の理念「愛は絶えることがない」（聖書・コリントの信徒への手紙13章8節より）という言葉が有ります。物語の終盤で、こどもたちの中に残った温かなものがまさに、惜しみない愛が育んだ産物なのだと思いました。さらに、おじちゃん先生と関わってきたかつてのこどもたちが遺影の前で涙する姿、絵本の本編の後にも物語が続いている様子が浮かび上がりました。この素晴らしい感動を当施設のこどもたちだけでなく、職員にも伝えさせていただきます。

▲保育園園長関係より

旧　公私立保育園園長　小林達子様に寄せられた感想です。

・五十年誌を手元に開きながら今絵本を読んでいます。涙が止まりません…　保育園長だった頃、儀重さんとはとても親しく、良くしていただいたものですから…

・主人と二人でゆっくり読みました。胸が熱くなり何回も何回も読み泣きました。娘（保育士をしています）が園児がとても喜び読み聞く事だろうと思います。今、感動の少ない娘達に大いに感動してほしいものですネ…

・色々な話に花が咲いた中で「絵本」の話に「わたしに三冊絵本を下さい」と云われる。（孫が三人いるので）クリスマスのプレゼントにしたいのです。嬉しいです。感謝、感謝。

・米子であった全国図書館研修会に出席していました。その時にいただいたチラシと村尾さんとのトークが胸にありました。その時の絵本に出会えてとても嬉しいです。チラシの絵に引かれるものがあったのです。出版を楽しみにしていました。

宮崎県の保育園園長先生より

・絵本ですが同じ保育園を営む者として、又又感動致しました。子どもは抱っこしてもらうのが大好きです。抱っこすると無条件に喜び愛情安心感で少々の痛みや不安感など吹飛んでしまうのでしょう。おじちゃん先生のお気持ちがよくよく理解できて、ほのぼのとした素晴らしい絵本だと思います。でも、おじちゃん先生遠くへ行ってしまわれたんですね。悲しいです。子ども達に読んであげましたら、身を乗り出して目をキラキラ輝かせて聞いておりましたが、年長児ともなりますと天国へ行かれたおじちゃん先生のことが悲しかったのでしょう、しょんぼりとなりました。

情操教育に最適の絵本だとおもいました。
丁度卒園の時期に差し掛かりまして、卒園児の子ども達に差し上げようと思います。52冊注文したいのですが。

▲その他、一般外部の方々

・何とも言葉では表現できない感動を覚えております。胸が一杯になりました。私も何か気持ちをお届けしたくなりました。
・青森のおじいちゃんの孫も「けいたくん」だよ。おじいちゃんのつくったりんご食べてね。
・山本先生の絵だけ見ても涙が出ます。
・絵と文とマッチして、おじちゃんそっくり。暖かい気持ちになりました。
・両親は忙しい仕事で、幼い時じいちゃんの背中でおんぶされて育ったので、なつかしいです。
・兄弟愛に泣きました。
・記念誌、さし込み（すばらしき遺産）、そして帯封（保護者連絡帳）みんな話さないで一緒に宝にしたいです。
・兎に角言葉には表せないけど、ありがとう。（沢山の知人に紹介して頂きました。）
・すてきな絵本クリスマスにみんなにプレゼントします。
・孫の友だちにプレゼントして大変喜ばれています。

▲多くの共通の言葉は「ことばでは表現出来ないけど泣けて、泣けて……」です。そうです、神に創られた人間は本当の心の深い所にある「真」「善」「美」にふれた時、言葉ではなく魂をゆさぶられ感動の涙を流すのだと思います。（それは神に近い一瞬かと）
そんな涙を流しで下さった多くの方々は、神の栄光と祝福にあずかったと言う事でしょうか。そして何より「おじちゃん」を始めとして小羊職員、園児、保護者、知人が神の家族としての絆を深めたと確信致しました。

ずっと「おじちゃんせんせい」

園児と用務員の交流、絵本に

江津市都野津町の作家村尾靖子さん(68)が、埼玉県の保育園で「おじちゃん」と慕われた男性と園児たちの交流など実話を基にした絵本「おじちゃんせんせいだいだいだーいすき」(今人舎)を出版した。

絵本を出版した村尾靖子さん=江津市都野津町

男性は、村尾さんの講演を通して交流がある保育園「行田子羊チャイルドセンター」(行田市)の用務員だった松本儀重さん。昨年7月、病気で70歳で亡くなるまで遊具づくりや庭木の枝切り、給食の手伝い、園児たちの写真撮影、泣きやまない子をおんぶしての散歩など、何でも器用に対応した。松本さんがあぐらをかくと、園児たちは競うようにひざを取り合った。

村尾さんは、そんな心温まる触れ合いの数々を、松本さんの姉で保育園を運営する社会福祉法人「こひつじ会」理事の市川益子さん(85)から死後に教えてもらった。心を打たれて出版社勤めの知人に相談すると、絵本作りが決まった。

保育園玄関の松本儀重さんの遺影の周りには、卒園児らの花束や手紙が置かれている=埼玉県行田市若小玉

卒園生の手紙や花束、遺影に

絵本は32ページ。おかあさんが恋しくて泣く子どもをおんぶし、「がまんせんでええぞ」と優しく見守る。運動会や農作業に一緒に取り組み、園児たちと仲良くなっていく。だがある日、元気がなくなったおじちゃんせんせいは、いなかのうちに帰っていく――。イラストレーターの山本祐司さんが優しいタッチで描いた。

松本さんは晩年、体調がすぐれなくても保育園に来て2階の応接間で横になって、園児たちの元気な声に耳を傾けるのを楽しみにしていた。市川さんは「子どもたちと心でつながり癒やしになっていたのかも」。亡くなった後、小学生や高校生らの卒園児が手紙や花束を持ってきてくれるのをみて、そう感じたという。

村尾さんは亡くなる数日前に保育園を訪ねたとき、松本さんが「また会いましょう」と見送ってくれた姿が忘れられない。「園児たちに愛情を注ぎ続けた、彼の生き方を伝えたいと思った。多くの人に読んでもらえたら」と話している。1470円。書店で購入できる。(小林一茂)

石見

山陰名産
あご野焼・あごす巻
長岡屋
ながおか
■白潟店
TEL(0852)27-8911
FAX(0852)27-6651
■北堀店
TEL(0852)24-5577
■工場・浜乃木店